

食品安全モニター課題報告
「食品に関するリスクコミュニケーション活動への参加等について」
(平成20年1月実施)の結果

【調査の概要】(詳細は別添参照)

1. 調査目的

これまで、食品安全委員会では、食品安全モニターの方に対し、当委員会が主催又は共催する意見交換会や「地域の指導者育成講座」等の開催を案内してきたところであり、今後とも、関心をお持ちの食品安全モニターの方には、地域におけるリスクコミュニケーション活動に参加いただきたいと考えている。

そこで、食品安全モニターの皆様の関心について把握するため、本調査を実施した。

2. 調査項目

次の3項目である。

「食品安全モニター随時報告」について

(「食品安全モニター随時報告」の提出状況等)

食品安全に関する意見交換会について

(食品安全に関する意見交換会への参加状況及び参加した感想、または、不参加の場合の理由。意見交換会で取り上げるテーマの希望等)

「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座等」について

(「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座等」の認知度及び参加状況、参した感想)

3. 実施期間

平成20年1月31日～2月15日

4. 対象

食品安全モニター 470名

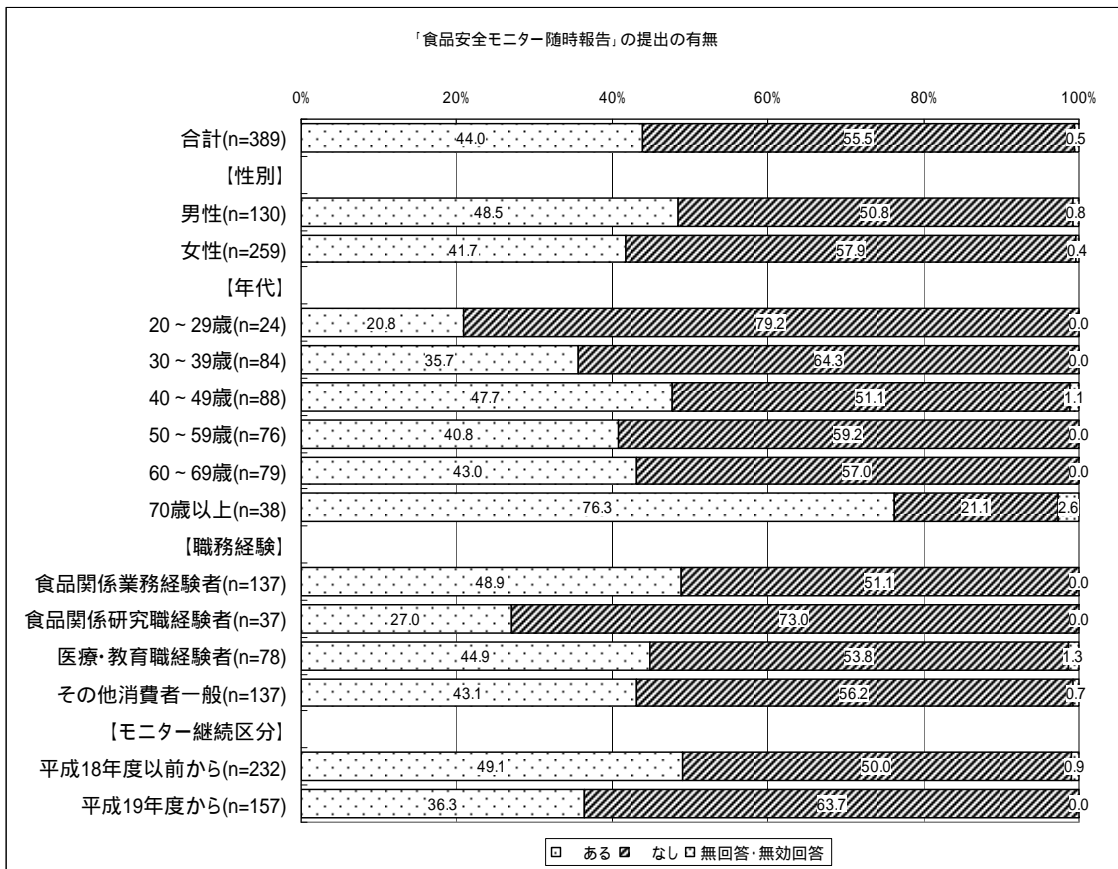
有効回答数 389名(有効回答率:82.8%)

【結果概要】

1) 「食品安全モニター随時報告」について

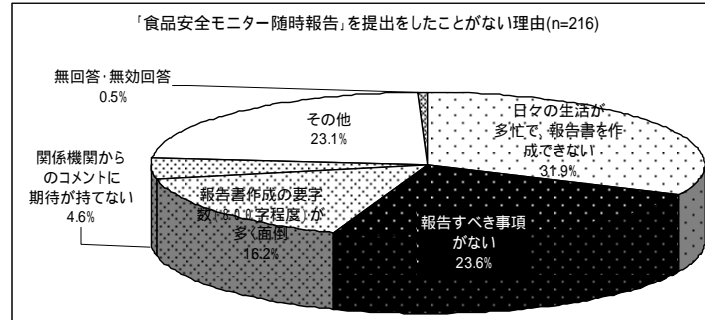
「食品安全モニター随時報告」の提出の有無(問1)

- ◆ 「食品安全モニター随時報告」の提出率は、4割強
- ◆ 性別では男性(5割弱)、年代別では70歳以上(7割6分)、職務経験では食品関係業務経験者(5割弱)の提出率が高い
- ◆ 平成18年度以前からのモニター(以下、「経験モニター」という)の提出率は約5割、平成19年度からの食品安全モニター(以下、「新規モニター」という)は4割弱で、経験モニターの方が提出率が高い



「食品安全モニター随時報告」を提出したことがない理由(問2)

- ◆ 「食品安全モニター随時報告」を提出したことがない理由は、「日々の生活が多忙で、報告書を作成できない」が3割強、「報告すべき事項がない」が2割強で、この2つの理由で過半数



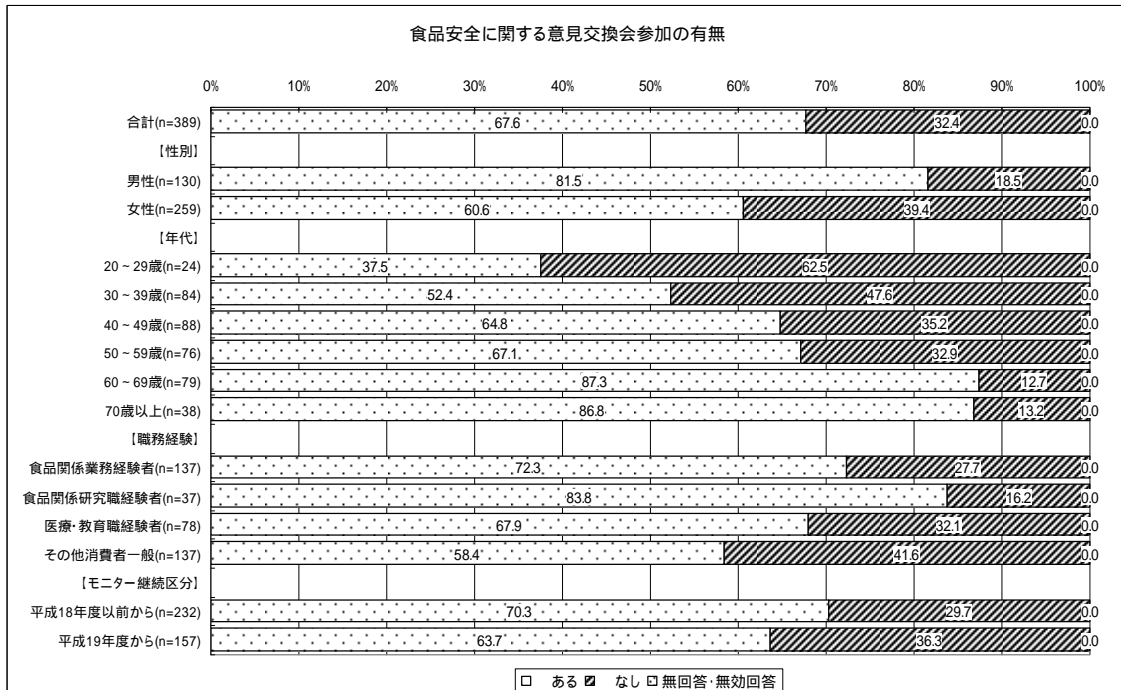
2) 食品安全に関する意見交換会について

食品安全に関する意見交換会への参加の有無(問3)

食品安全に関する意見交換会に参加経験のある人は7割弱

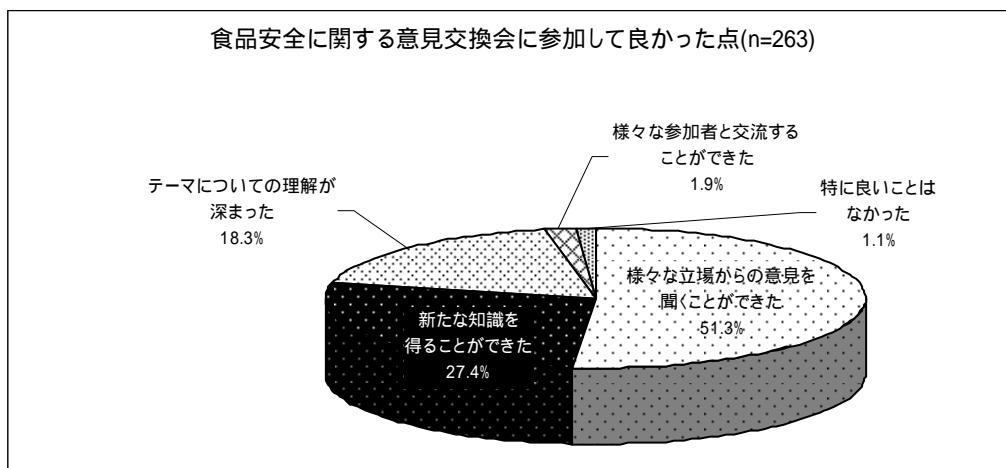
性別では男性(8割強)、職務経験では食品関係研究職経験者(8割強)の参加経験の割合が高い

年代が上がるにしたがって、参加経験の割合も高くなる



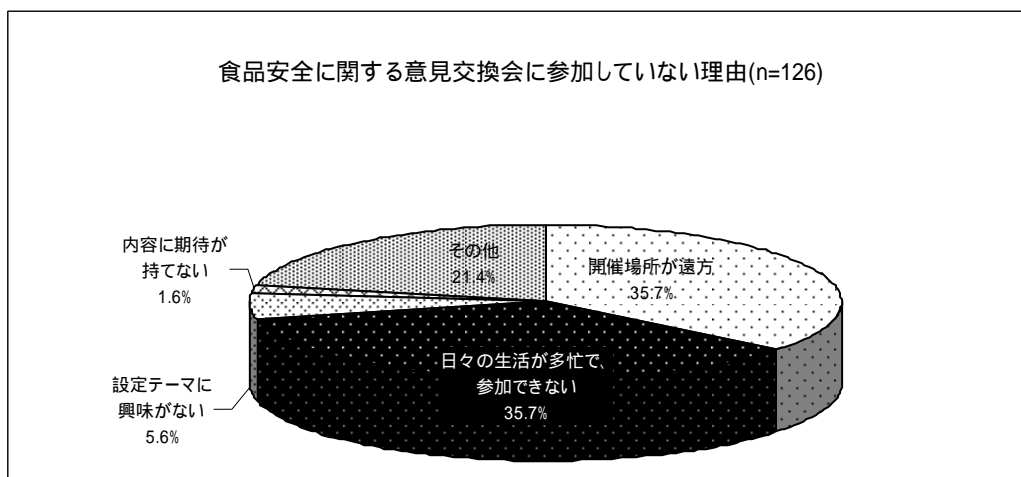
食品安全に関する意見交換会に参加して良かった点（問4）

- ◆ 食品安全に関する意見交換会に参加して良かった点については、「様々な立場からの意見を聞くことができた」が5割強で、「新たな知識を得ることができた」が3割弱、「テーマについての理解が深まった」が2割弱であった



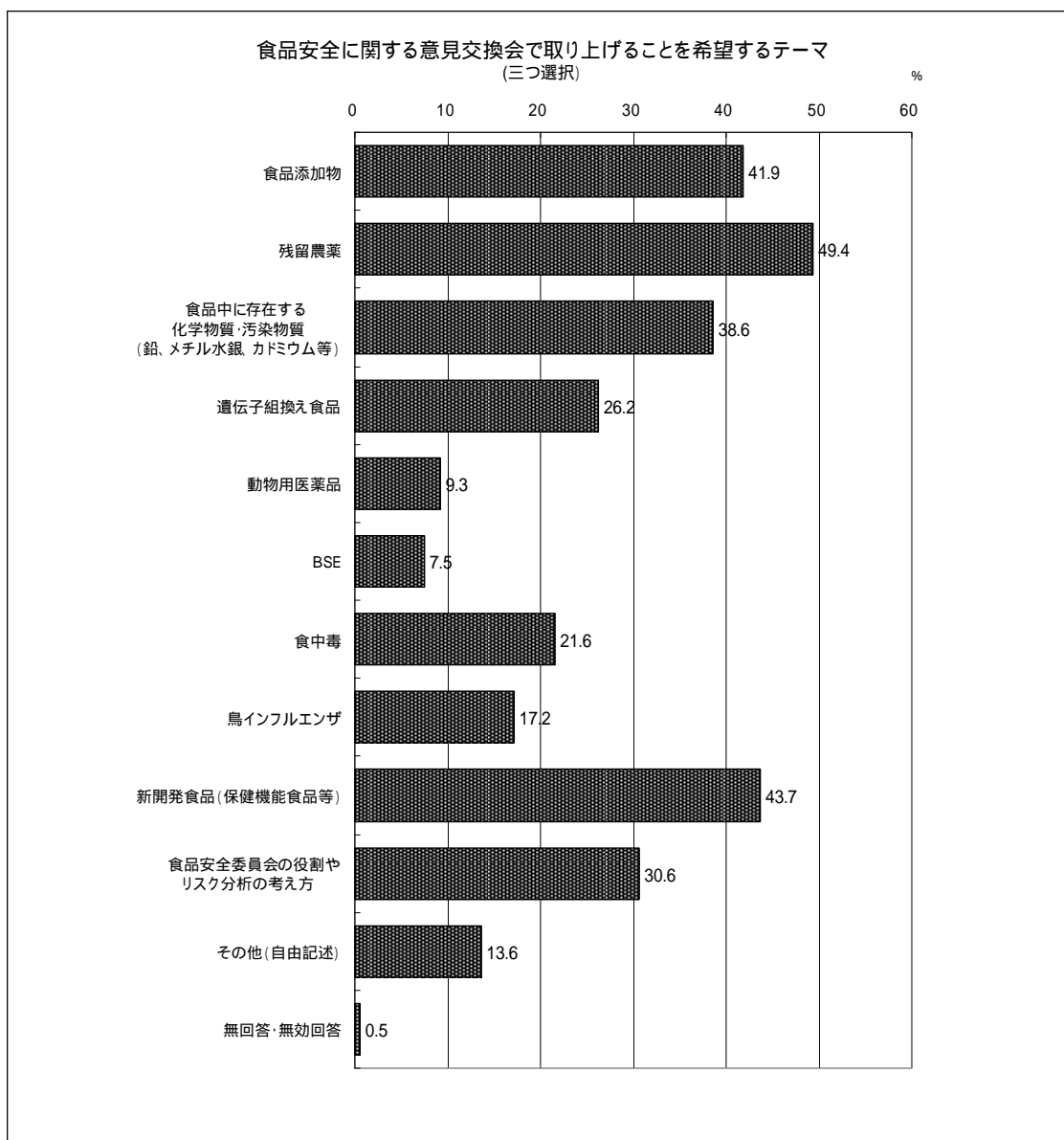
食品安全に関する意見交換会に参加していない理由（問5）

- ◆ 食品安全に関する意見交換会に参加していない理由は、「開催場所が遠方」、「日々の生活が多忙で、参加できない」がそれぞれ3割5分であった



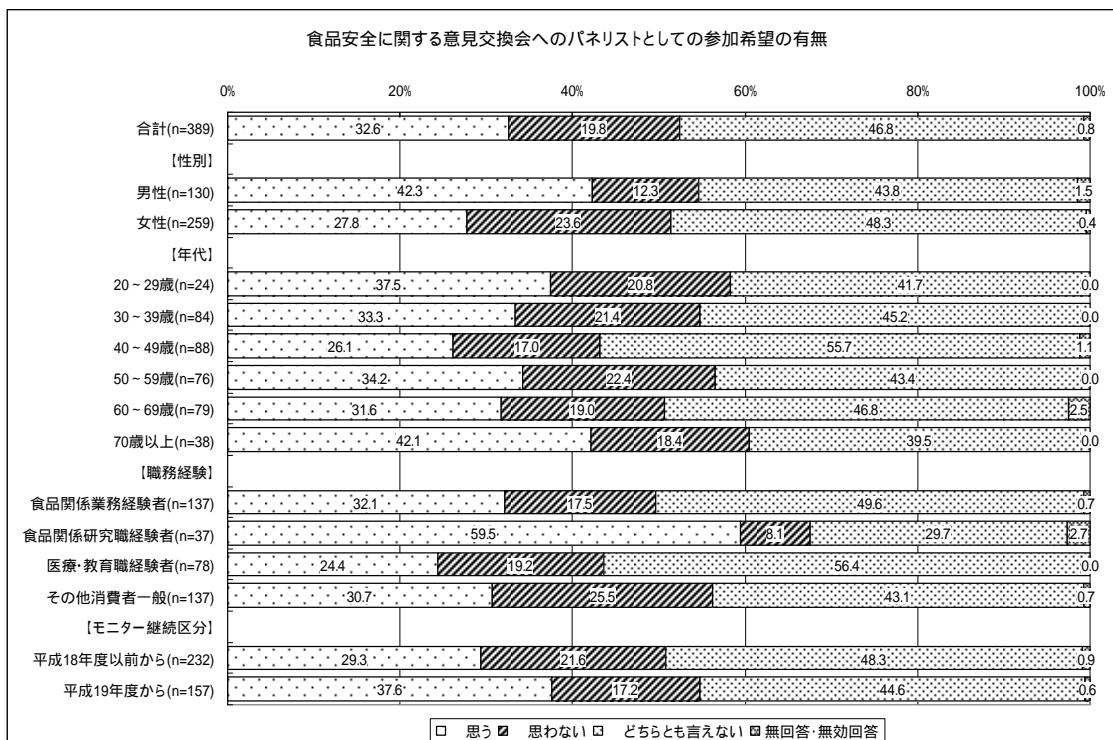
食品安全に関する意見交換会で取り上げられることを希望するテーマ（問6）

- ◆ 食品安全に関する意見交換会で取り上げられることを希望するテーマとして最も多いのは、「残留農薬」で、約5割の人が希望
- ◆ 続いて「新開発食品（保健機能食品等）」、「食品添加物」がそれぞれ4割強、「食品中に存在する化学物質・汚染物質」が4割弱、「食品安全委員会の役割やリスク分析の考え方」が3割、「遺伝子組換え食品」が2割6分、「食中毒」が2割強であった



食品安全に関する意見交換会へのパネリストとしての参加希望の有無(問7)

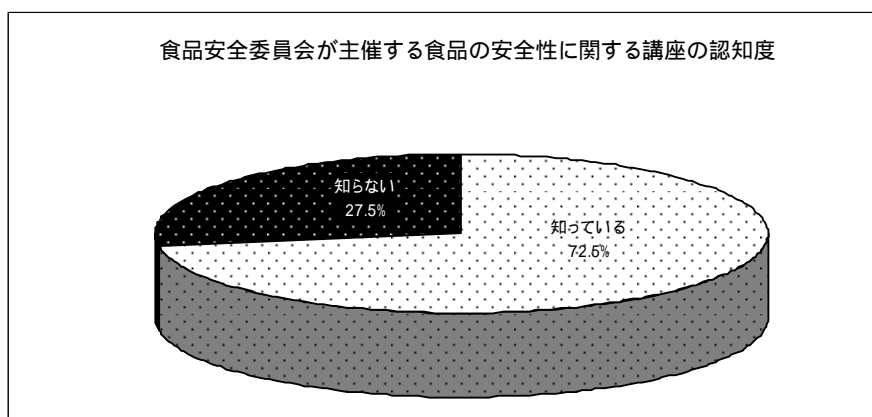
- ◆ 食品安全に関する意見交換会へのパネリストとして参加を希望する人の割合は3割強
- ◆ パネリストとしての参加希望が多いのは、性別では男性(4割強)、年代別では20歳代と70歳以上(約4割)、職務経験では食品関係研究職経験者(6割強)、モニター継続区分では新規モニター(4割強)



3) 「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座等」について

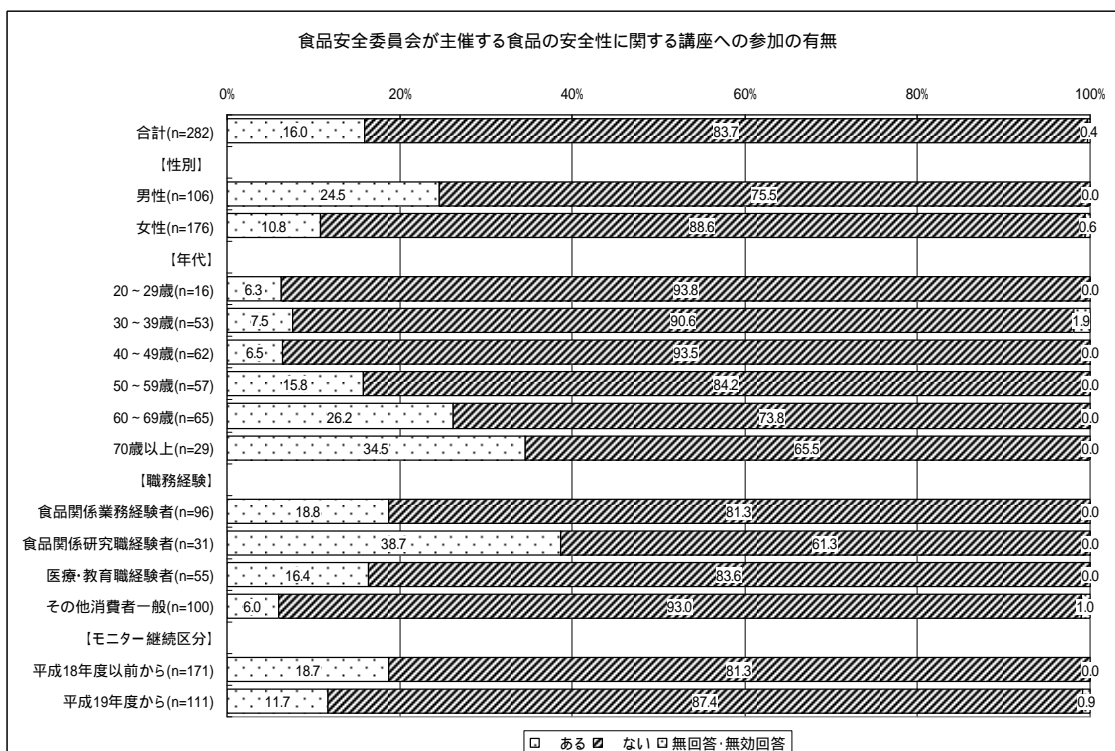
食品安全委員会が「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座」及び「食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座」を開催していることに対する認知度(問8)

- ◆ 食品安全委員会が開催している「食品の安全性に関する地域の指導者養成講座」及び「食品の安全性に関するリスクコミュニケーター養成講座」の認知度は7割強



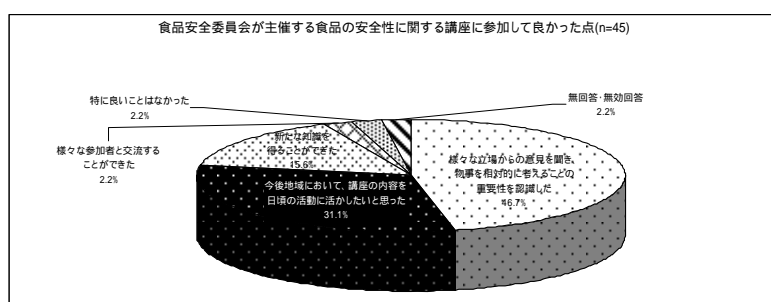
「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座」及び「食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座」への参加の有無（問9）

「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座」及び「食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座」へ参加したことがある人の割合は、1割6分
 参加の割合が高いのは、性別では男性（2割5分）、年代別では70歳以上（3割5分）、職務経験では食品関係研究職経験者（4割弱）、モニター継続区分では継続モニター（2割弱）



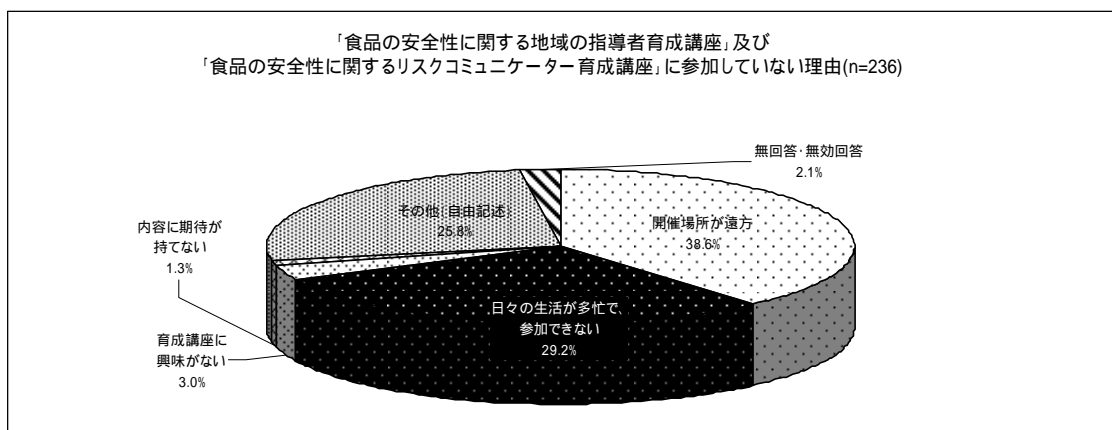
「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座」及び「食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座」に参加して良かった点（問10）

「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座」及び「食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座」に参加して良かった点は、「様々な立場からの意見を聞き、物事を相対的に考えることの重要性を認識した」が約5割で、次いで「今後地域において、講座の内容を日頃の活動に活かしたいと思った」が3割強であった



「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座」及び「食品の安全性に関する
リスクコミュニケーター育成講座」に参加していない理由（問11）

「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座」及び「食品の安全性に関するリス
クコミュニケーター育成講座」に参加していない理由は、「開催場所が遠方」が4割弱
で最も多く、続いて「日々の生活が多忙で、参加できない」が3割弱で、この2つの回
答で全体の約7割であった



【別添】

1. 調査目的

これまで、食品安全委員会では、食品安全モニターの方に対し、当委員会が主催又は共催する意見交換会や「地域の指導者育成講座」等の開催を案内してきたところであり、今後とも、関心をお持ちの食品安全モニターの方には、地域におけるリスクコミュニケーション活動に参加いただきたいと考えている。

そこで、食品安全モニターの皆様の関心について把握するため、本調査を実施した。

2. 調査項目

次の3項目である。

「食品安全モニター随時報告」について

（「食品安全モニター随時報告」の提出状況等）

食品安全に関する意見交換会について

（食品安全に関する意見交換会への参加状況及び参加した感想、または、不参加の場合の理由。意見交換会で取り上げるテーマの希望等）

「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座等」について

（「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座等」の認知度及び参加状況、参加した感想）

3. 実施期間

平成20年1月31日～2月15日

4. 対象

食品安全モニター 470名

有効回答数 389名（有効回答率：82.8%）

1) 食品安全モニターの回答者数の内訳

男女別：

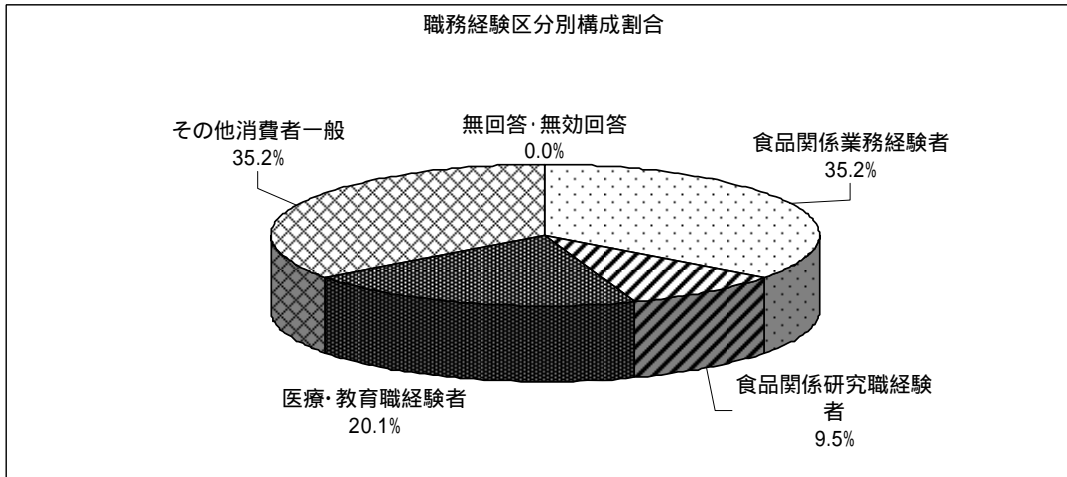
	回答者数	割合
全体	389人	100.0%
男性	130人	33.4%
女性	259人	66.6%

年齢別：

	回答者数	割合
全体	389人	100.0%
20～29歳	24人	6.2%
30～39歳	84人	21.6%
40～49歳	88人	22.6%
50～59歳	76人	19.5%
60～69歳	79人	20.3%
70歳以上	38人	9.8%

職務経験区分別：

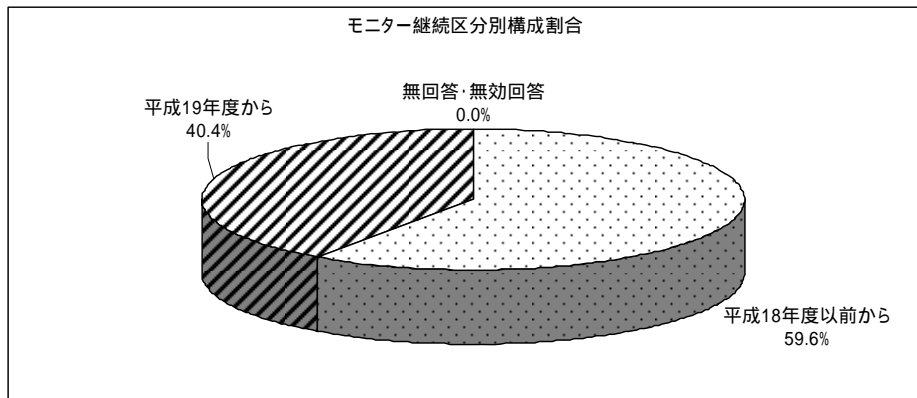
食品関係業務経験者	・現在もしくは過去において、食品の生産、加工、流通、販売等に関する職業(飲食物調理従事者、会社・団体等役員などを含む)に就いた経験を5年以上有している方 ・過去に食品の安全に関する行政に従事した経験を5年以上有している方	137人
食品関係研究職経験者	・現在もしくは過去において、試験研究機関(民間の試験研究機関を含む)、大学等で食品の研究に関する専門的な職業に就いた経験を5年以上有している方	37人
医療・教育職経験者	・現在もしくは過去において、医療・教育に関する職業(医師、獣医師、薬剤師、看護師、小中高校教師等)に就いた経験を5年以上有している方	78人
その他消費者一般	・上記の項目に該当しない方	137人



	男女別		年代区分別			全体
	男性	女性	20～39歳	40～59歳	60歳以上	
食品関係業務経験者	71人	66人	32人	59人	46人	137人
	51.8%	48.2%	23.4%	43.1%	33.6%	100.0%
食品関係研究職経験者	23人	14人	10人	10人	17人	37人
	62.2%	37.8%	27.0%	27.0%	45.9%	100.0%
医療・教育職経験者	15人	63人	22人	27人	29人	78人
	19.2%	80.8%	28.2%	34.6%	37.2%	100.0%
その他消費者一般	21人	116人	44人	68人	25人	137人
	15.3%	84.7%	32.1%	49.6%	18.2%	100.0%

モニター継続区分：

- 平成18年度以前からのモニター
(以下、「継続モニター」という) 232人
- 平成19年度からのモニター
(以下、「新規モニター」という) 157人



調査結果

1) 「食品安全モニター随時報告」について

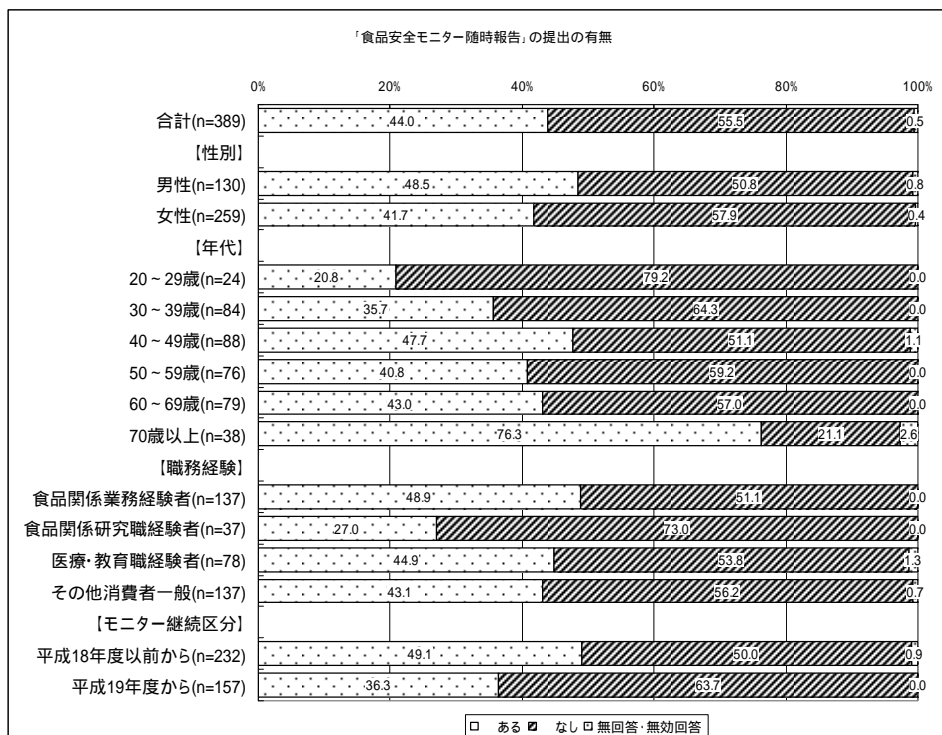
「食品安全モニター随時報告」の提出の有無

問1 あなたは、平成19年度（平成19年4月以降）「食品安全モニター」としての活動の一環である「食品安全モニター随時報告」を提出したことがありますか。（一つ選択）

- ◆ 「食品安全モニター随時報告」の提出率は、4割強
- ◆ 性別では男性(5割弱)、年代別では70歳以上(7割6分)、職務経験では食品関係業務経験者(5割弱)の提出率が高い
- ◆ 平成18年度以前からのモニター(以下、「経験モニター」という)の提出率は約5割、平成19年度からの食品安全モニター(以下、「新規モニター」という)は4割弱で、経験モニターの方が提出率が高い

平成19年度に「食品安全モニター随時報告」を提出したと回答した人の割合は44.0%であった。これに対し、提出していないと回答した人は55.5%であった。

提出状況を性別に比較すると、男性48.5%、女性41.7%で、男性の方が高い結果であった。年代別では70歳以上が76.3%で最も高く、20～29歳が20.8%で最も低かった。職務経験では、食品関係業務経験者が48.9%で最も高く、食品関係研究職経験者が27.0%で最も低かった。また、モニター継続区分では、継続モニターが49.1%で、新規モニターの36.3%より提出率は高かった。



「食品安全モニター随時報告」を提出したことがない理由

問2 問1で「ない」をお選びになった方にお尋ねします。その理由を記入してください。(一つ選択)

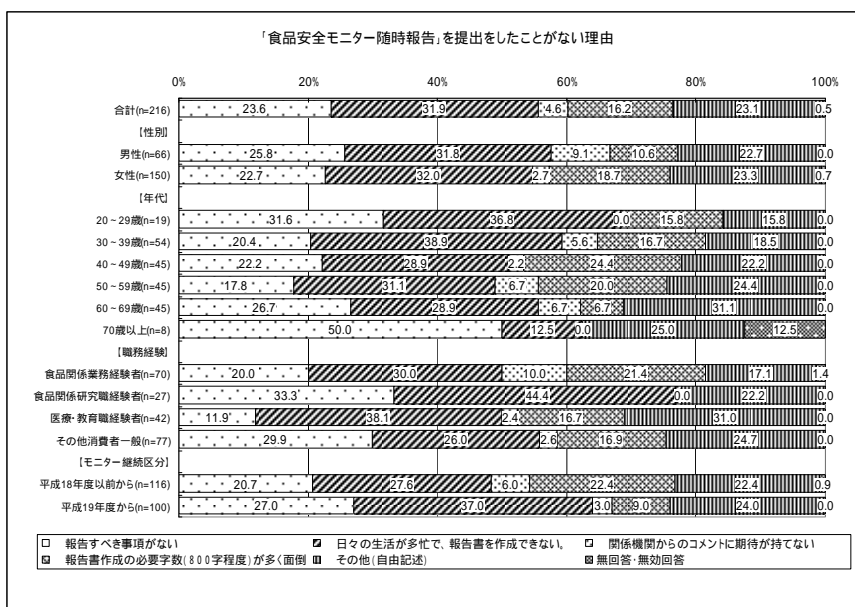
- ◆ 「食品安全モニター随時報告」を提出したことがない理由は、「日々の生活が多忙で、報告書を作成できない」が3割強、「報告すべき事項がない」が2割強で、この2つの理由で過半数
- ◆ モニター継続区分では、継続モニターは新規モニターに比べ、「報告書作成の必要字数(800字程度)が多く面倒」の回答が多く、新規モニターは継続モニターに比べ「報告すべき事項がない」の回答が多い(「報告書作成の必要字数(800字程度)が多く面倒」は継続モニター:2割強、新規モニター:1割弱。「報告すべき事項がない」は継続モニター:2割強、新規モニター:3割弱)

「食品安全モニター随時報告」を提出しなかった理由として、「日々の生活が多忙で報告書を作成できない」、「報告すべき事項がない」の回答割合は、それぞれ31.9%、23.6%で、この2つの回答で半数を超える。

継続モニター、新規モニター共に、最も多い理由は「日々の生活が多忙で報告書を作成できない」であったが、2番目に多い理由は異なる。

継続モニターで2番目に多い理由である「報告書作成の必要字数(800字程度)が多く面倒」は、継続モニターでは22.4%に対し、新規モニターでは9.0%であった。新規モニターで2番目に多い理由である「報告すべき事項がない」は、新規モニターでは27.0%であり、継続モニターでは20.7%であった。

注:「その他」の理由は、【自由記述回答・まとめ】に記載



2) 食品安全に関する意見交換会について

食品安全に関する意見交換会への参加の有無

問3 あなたは、食品安全に関する意見交換会(主催者は問いません。以下同じ。)に参加したことはありますか。(一つ選択)

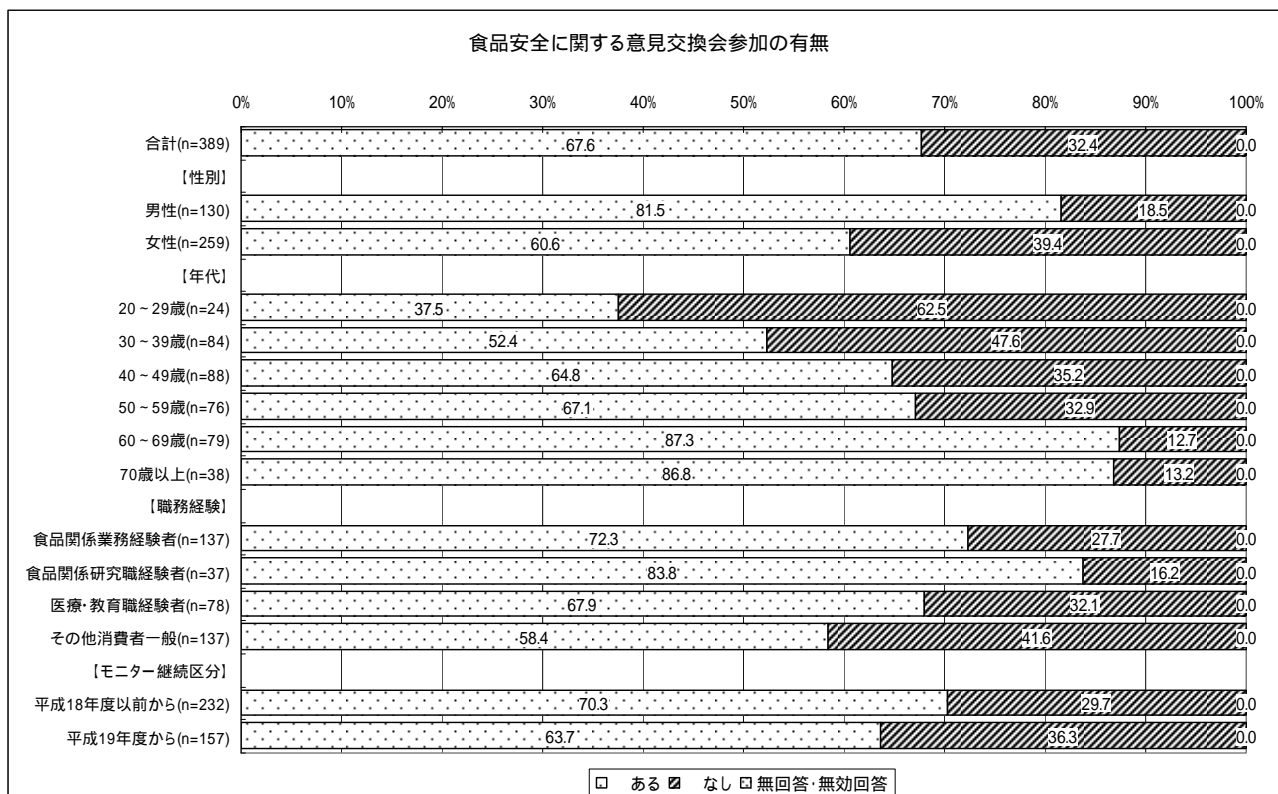
食品安全に関する意見交換会に参加経験のある人は7割弱

性別では男性(8割強)、職務経験では食品関係研究職経験者(8割強)の参加経験の割合が高い

年代が上がるにしたがって、参加経験の割合も高くなる

食品安全に関する意見交換会に参加経験がある割合は、67.6%であった。

性別では、女性が60.6%であるのに対し、男性は81.5%で、男性の方が参加の割合は高く、年代別では、20～29歳が37.5%、70歳以上が86.8%であり、年代が上がるにしたがって参加経験の割合も高くなる。職務経験においては、その他消費者一般は58.4%で参加の割合が低く、食品関係研究職経験者は83.8%で参加の割合が高い。モニター継続区分別では、継続モニターの参加割合が70.3%に対し、新規モニターは63.7%であり、継続モニターの方が参加経験の割合は高かった。



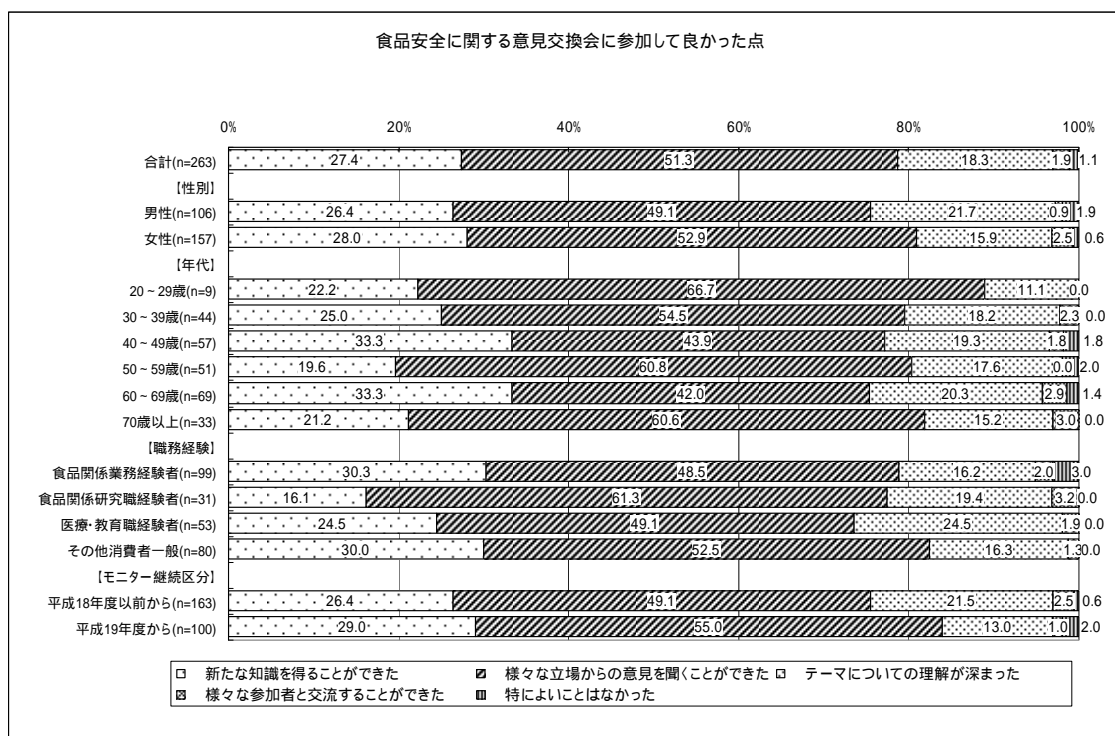
食品安全に関する意見交換会に参加して良かった点

問4 問3で「ある」をお選びになった方にお尋ねします。参加してみて、どのような点が良かったですか。(一つ選択)

- ◆ 食品安全に関する意見交換会に参加して良かった点については、「様々な立場からの意見を聞くことができた」が5割強で、「新たな知識を得ることができた」が3割弱、「テーマについての理解が深まった」が2割弱であった
- ◆ 食品関係研究職経験者は、「様々な立場からの意見を聞くことができた」の回答割合が他の職務経験より高く、逆に「新たな知識を得ることができた」の回答割合は低い（「様々な立場からの意見を聞くことができた」：6割強、「新たな知識を得ることができた」：1割6分）

食品安全に関する意見交換会に参加して良かった点として、「様々な立場からの意見を聞くことができた」が51.3%で、「新たな知識を得ることができた」が27.4%、「テーマについての意見が深まった」が18.3%であった。

職務経験で見ると、食品関係研究職経験者は、他の職務経験で5割前後の回答である「様々な立場からの意見を聞くことができた」の回答割合が6割強と高かった。その反面、他の職務経験で2割5分から3割の回答割合である「新たな知識を得ることができた」が1割6分と低かった。



食品安全に関する意見交換会に参加していない理由

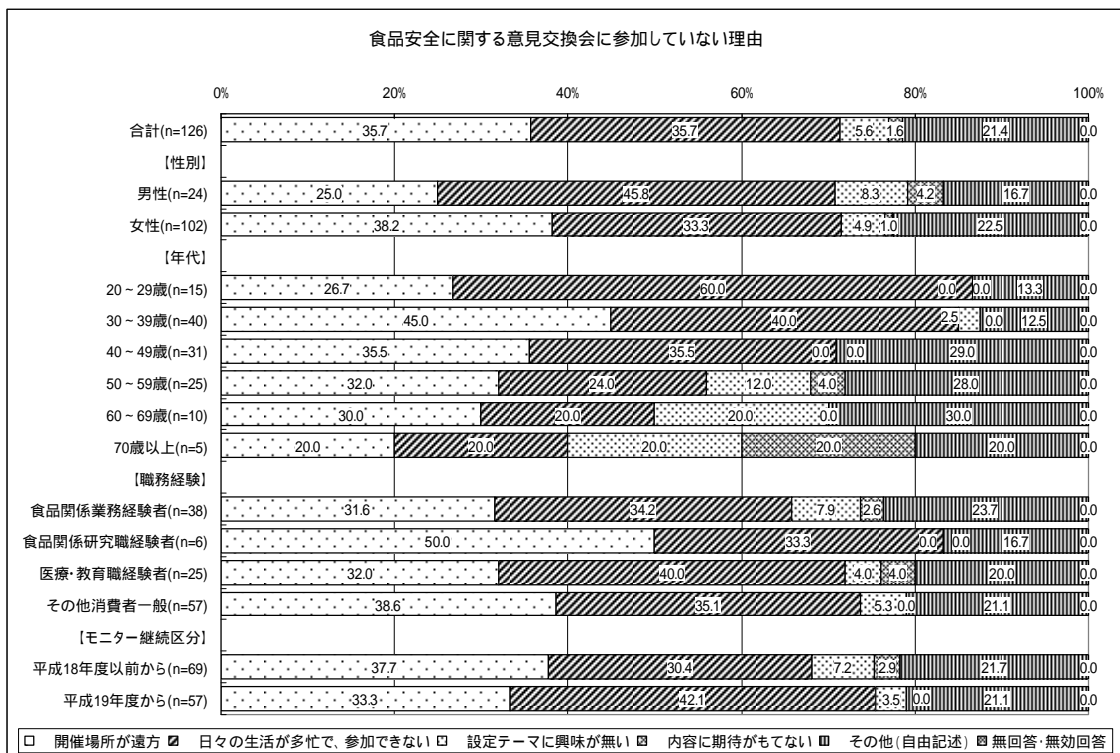
問5 問3で「ない」をお選びになった方にお尋ねします。その理由を記入してください。(一つ選択)

食品安全に関する意見交換会に参加していない理由は、「開催場所が遠方」、「日々の生活が多忙で、参加できない」がそれぞれ3割5分であった

「設定テーマに興味がない」、「内容に期待がもてない」という理由で食品安全に関する意見交換会に参加していない回答割合の合計は1割弱

意見交換会に参加しなかった人の理由として、「開催場所が遠方」、「日々の生活が多忙で、参加できない」とする回答割合は共に 35.7%で、この2つの理由が全体の7割強を占める。それ以外の理由としては、「設定テーマに興味がない」が5.6%、「内容に期待がもてない」は1.6%であった。

注：「その他」の理由は、【自由記述回答・まとめ】に記載



食品安全に関する意見交換会で取り上げたいことを希望するテーマ

問 6 食品安全に関する意見交換会に参加する際に取り上げるテーマとして、どのようなものを希望されますか。該当する番号を記入してください。(三つ選択)

- ◆ 食品安全に関する意見交換会で取り上げたいことを希望するテーマとして最も多いのは、「残留農薬」で、約5割の人が希望
- ◆ 続いて「新開発食品(保健機能食品等)」、「食品添加物」がそれぞれ4割強、「食品中に存在する化学物質・汚染物質」が4割弱、「食品安全委員会の役割やリスク分析の考え方」が3割、「遺伝子組換え食品」が2割6分、「食中毒」が2割強であった
- ◆ 男性が女性より多く希望しているテーマは「食品安全委員会の役割やリスク分析の考え方」、「食中毒」、「鳥インフルエンザ」。女性が男性より多く希望するテーマは「残留農薬」、「食品添加物」、「新開発食品(保健機能食品等)」、「食品中に存在する化学物質・汚染物質」
- ◆ 年代別に希望する割合が最も高いテーマは、30歳代、60歳以上は「残留農薬」、20歳代、40歳代は「新開発食品(保健機能食品等)」、50歳代は「食品安全委員会の役割やリスク分析の考え方」
- ◆ 食品関係研究職経験者が希望する割合が最も高いテーマは、「食品安全委員会の役割やリスク分析の考え方」で、他の職務経験では「残留農薬」
- ◆ 希望しているテーマについて、モニターの継続区分で顕著な差がみられるのは、「食品添加物」は新規モニターが、「鳥インフルエンザ」は継続モニターがより多く希望

意見交換会で取り上げるテーマとして希望する割合が最も高かったのは、「残留農薬」が49.4%で約5割であった。続いて「新開発食品(保健機能食品等)」が43.7%、「食品添加物」が41.9%、「食品中に存在する化学物質・汚染物質」が38.6%であった。

「食品安全委員会の役割やリスク分析の考え方」を望む割合は30.6%で、「遺伝子組換え食品」の26.2%、食中毒の21.6%、鳥インフルエンザの17.2%、動物用医薬品の9.3%、BSEの7.5%よりも多かった。

意見交換会で希望する割合が最も高いテーマは、男女共に「残留農薬」であるが、2位と3位のテーマは性別で異なる。2位は、男性では「新開発食品(保健機能食品等)」であるのに対し、女性では「食品添加物」であり、3位は、男性では「食品安全委員会の役割やリスク分析の考え方」であり、女性では「新開発食品(保健機能食品等)」であった。

男性は女性よりも「食品安全委員会の役割やリスク分析の考え方」、「食中毒」、「鳥インフルエンザ」について、女性は男性よりも「食品添加物」、「残留農薬」、「食品中に存在する化学物質・汚染物質」、「新開発食品(保健機能食品等)」につ

いて、意見交換会で取り上げてほしいとする割合が多かった。

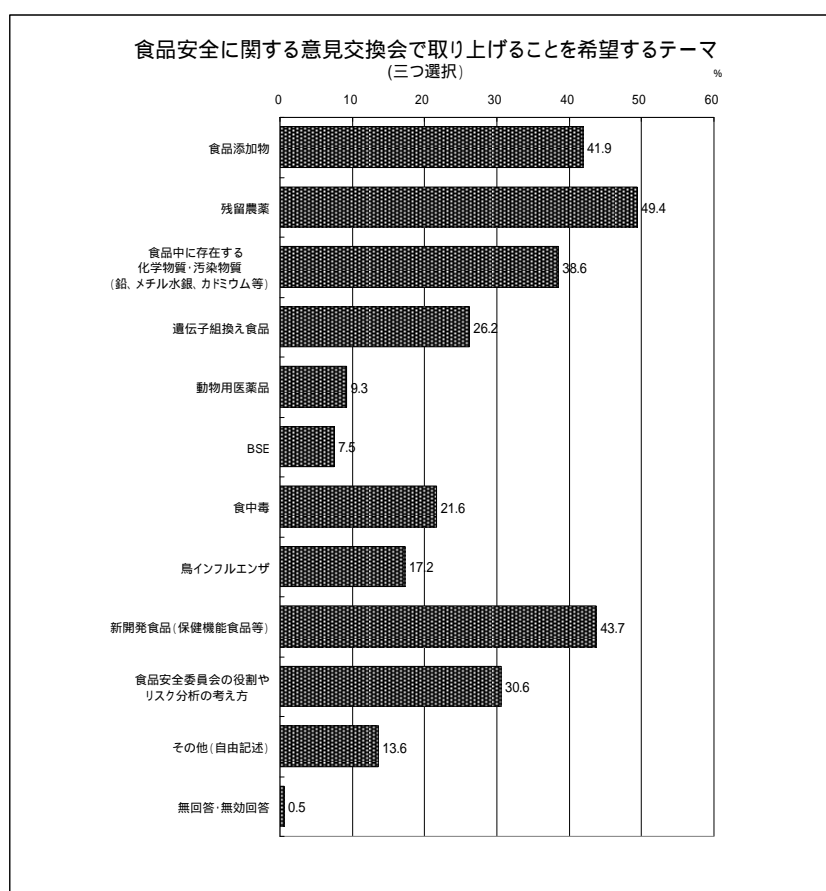
年代別に希望する割合が最も高いテーマは異なり、「残留農薬」は30～39歳で53.6%、60～69歳で54.4%、70歳以上で55.3%、「新開発食品（保健機能食品等）」は20～29歳で54.2%、40～49歳で54.5%、「食品安全委員会の役割やリスク分析の考え方」は50～59歳で47.4%の人が希望している。

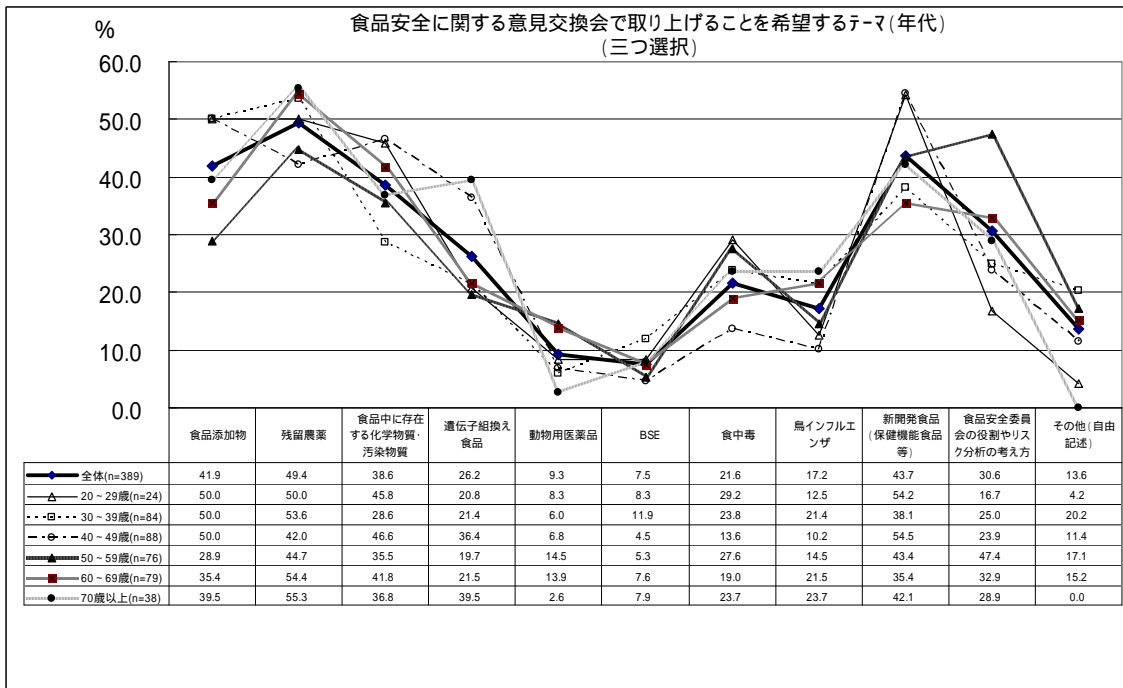
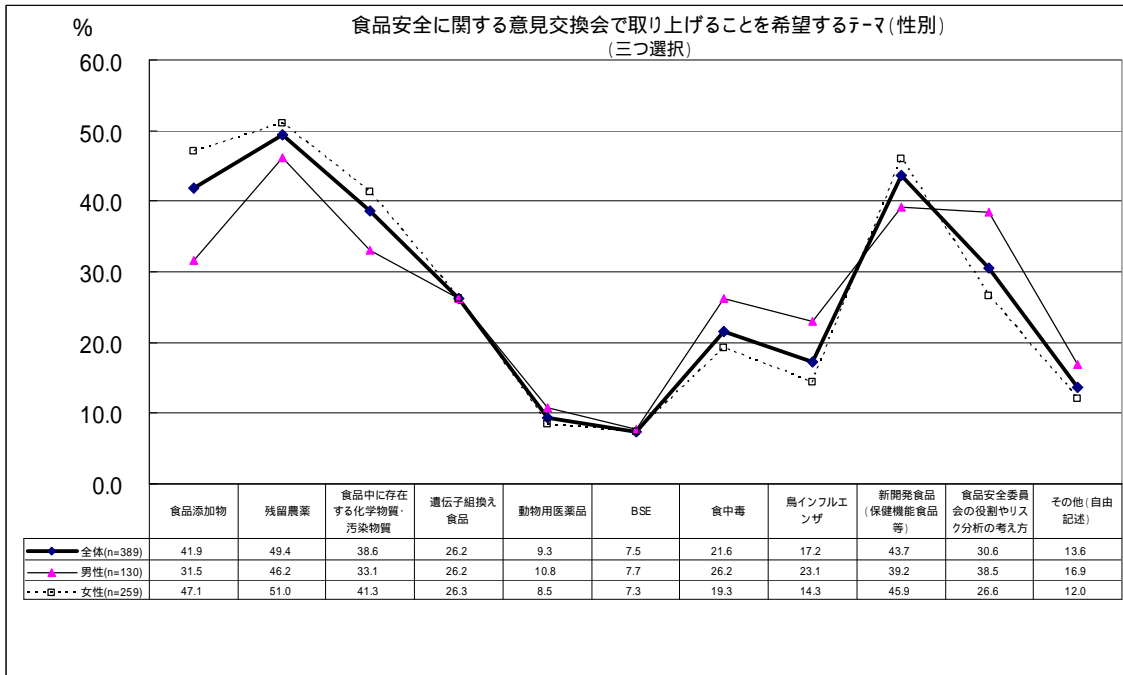
職務経験ごとに希望する割合が最も高いテーマは、食品関係研究職経験者では「食品安全委員会の役割やリスク分析の考え方」で47.4%であるのに対し、食品関係研究職経験者以外では「残留農薬」であった。

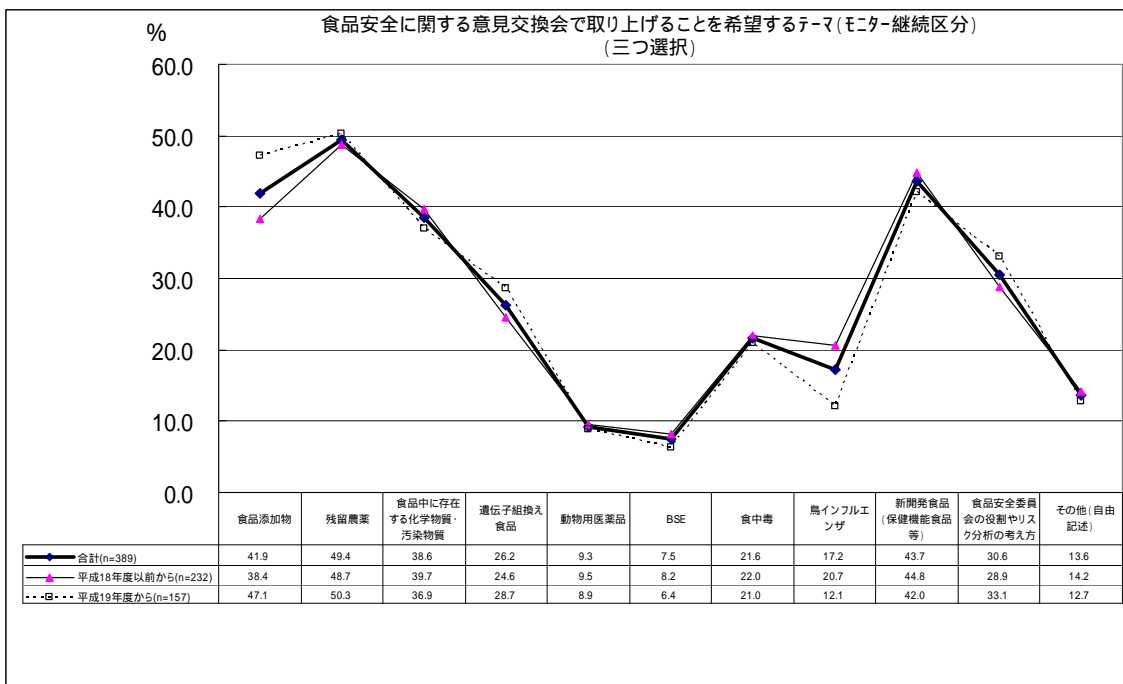
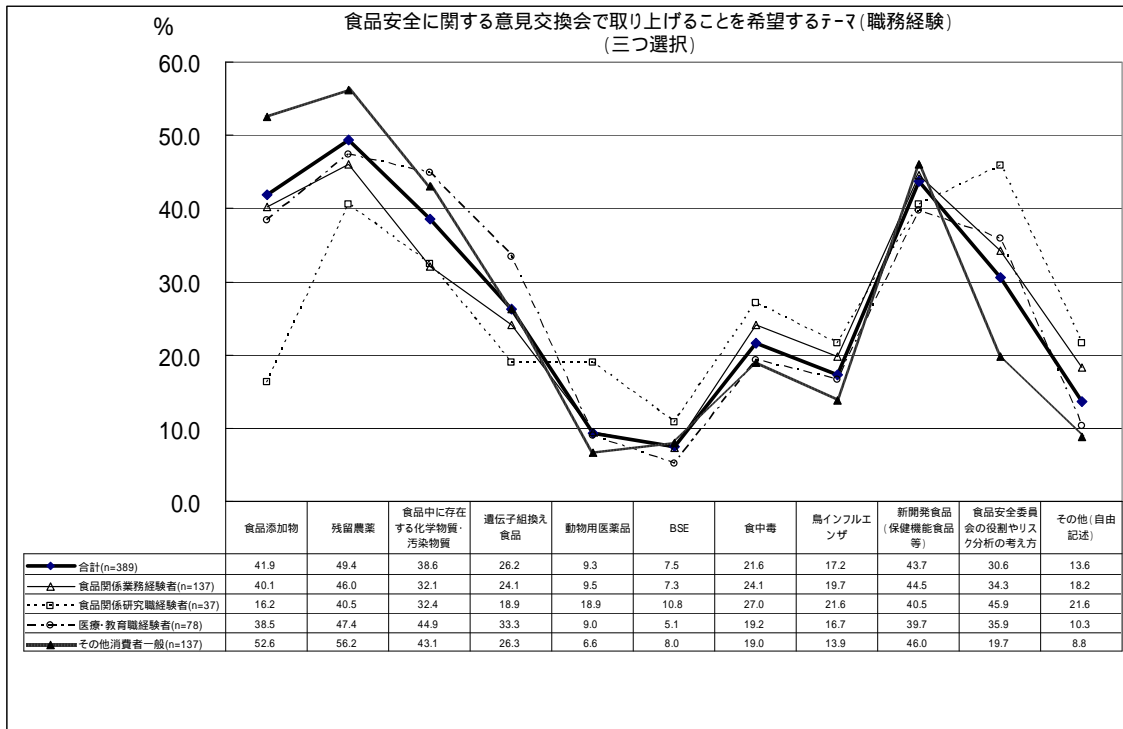
モニター継続区分では、継続モニター、新規モニターともに、「残留農薬」の希望がそれぞれ48.8%、50.3%で最も多いが、2番目以降の希望するテーマは異なる。継続モニターは「新開発食品（保健機能食品等）」、「食品中に存在する化学物質・汚染物質」、「食品添加物」の順で、新規モニターは「食品添加物」、「新開発食品（保健機能食品等）」、「食品中に存在する化学物質・汚染物質」の順であった。

また「食品中に存在する化学物質・汚染物質」は継続モニターの方が、「食品添加物」、「食品安全委員会の役割やリスク分析の考え方」は新規モニターの方が希望する割合は高い。

注：「その他」の理由は、【自由記述回答・まとめ】に記載







食品安全に関する意見交換会へのパネリストとしての参加希望の有無

問 7 あなたは、今後、食品安全に関する意見交換会が開催される際に、パネリスト等として主体的に参加したいと思いますか。(一つ選択)

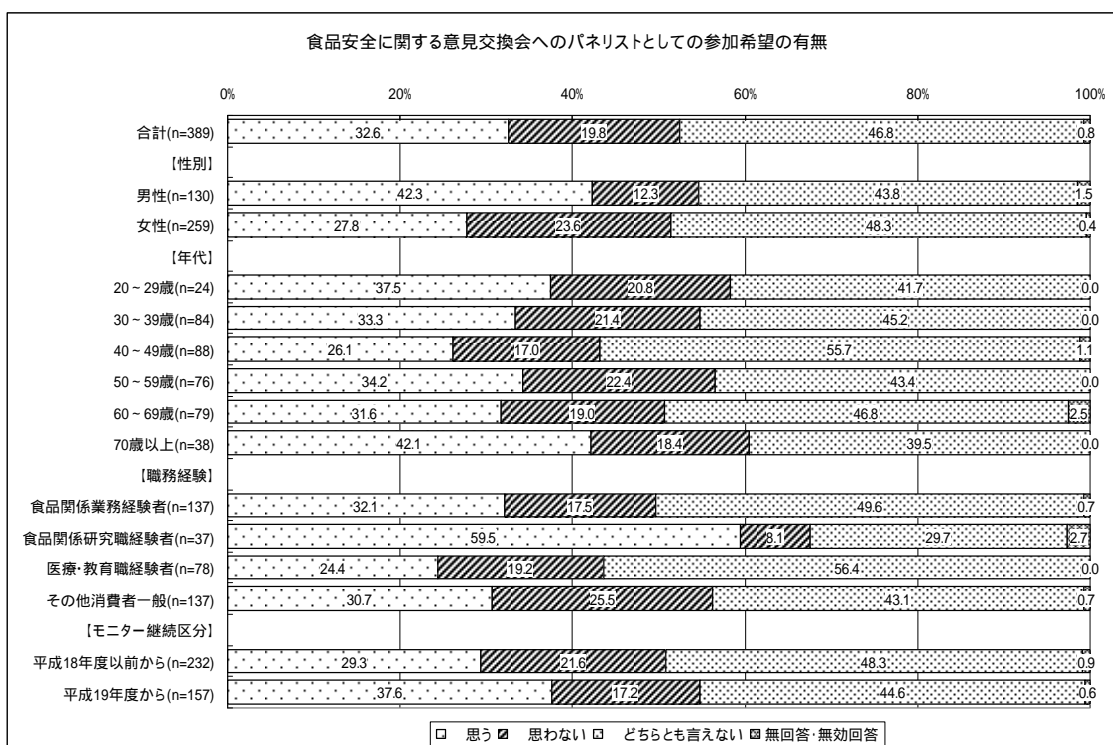
- ◆ 食品安全に関する意見交換会へのパネリストとして参加を希望する人の割合は3割強
- ◆ パネリストとしての参加希望が多いのは、性別では男性(4割強)、年代別では20歳代と70歳以上(約4割)、職務経験では食品関係研究職経験者(6割弱)、モニター継続区分では新規モニター(4割弱)

食品安全に関する意見交換会へのパネリストとしての参加は、32.6%の人が希望している。希望しないと回答した割合は19.8%、どちらとも言えないと回答した割合は46.8%であった。

性別では男性が42.3%、女性が27.8%で、男性の方が希望をする割合は高く、年代別では、70歳以上の希望が最も多く42.1%、次いで20~29歳が37.5%であった。

職務経験では、食品関係研究職経験者が59.5%で、食品関係業務経験者が32.1%、その他消費者一般の30.7%、医療・教育職経験者の24.4%と比べ、群を抜いて多い。

新規モニターは37.8%で、継続モニターの29.3%より、パネリストとしての参加希望の割合は高かった。



3) 「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座等」について

食品安全委員会が「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座」及び「食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座」を開催していることに対する認知度

問8 あなたは、「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座 1」及び「食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座 2」を食品安全委員会が開催していることを知っていますか。(一つ選択)

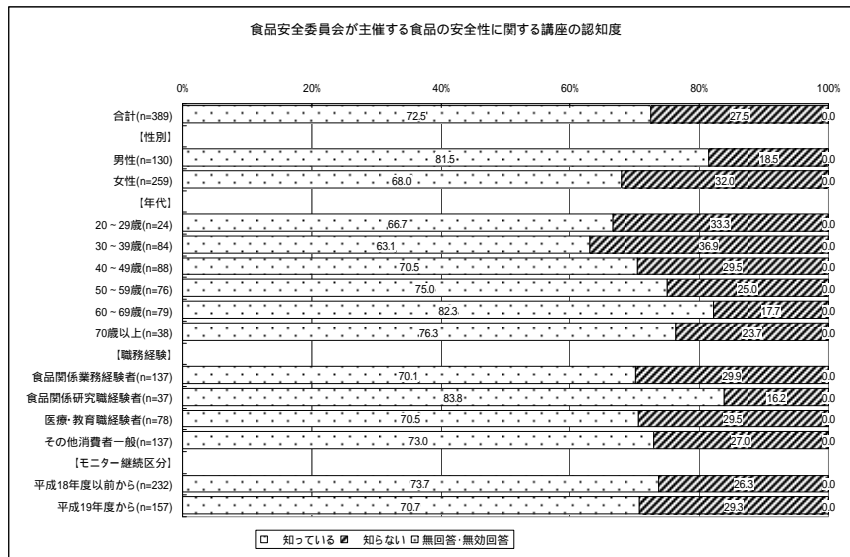
- 1 食品の安全性に関する地域の指導者育成講座
地域におけるリスクコミュニケーションの指導者として、草の根の活動を通じて情報を提供し、食に関する科学的で正しい理解を広めていただくことを期待する者を育成することを目的に、リスクコミュニケーション能力を高めるための演習を内容とした講座
- 2 食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座
地域における意見交換会等において、様々な参加者(消費者、事業者など)の意見や論点を明確にすることで、相互の意思疎通を円滑にする役割を担う「リスクコミュニケーター」を育成するための講座

- ◆ 食品安全委員会が開催している「食品の安全性に関する地域の指導者養成講座」及び「食品の安全性に関するリスクコミュニケーター養成講座」の認知度は7割強
- ◆ 認知度が高いのは、性別では男性(8割強)、年代別では60歳代(8割強)、職務経験では食品関係研究職経験者(8割強)、モニター継続区分では継続モニター(7割強)

食品安全委員会が開催している「食品の安全性に関する地域の指導者養成講座」及び「食品の安全性に関するリスクコミュニケーター養成講座」は72.5%の人に認知されている。

認識している割合は、女性の68.0%に対し、男性は81.5%で、男性の方が高く、年代では30～39歳が63.1%で最も低く、60～69歳は82.3%で最も高い。

職務経験では食品関係研究職経験者が83.8%で認知度は最も高く、モニター継続区分では継続モニターが73.7%で、新規モニターの70.7%より認知度は高い。



食品の安全性に関する地域の指導者育成講座」及び「食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座」への参加の有無

問9 問8で「知っている」をお選びになった方にお尋ねします。食品安全委員会が実施する「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座」又は「食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座」に参加したことはありますか。(一つ選択)

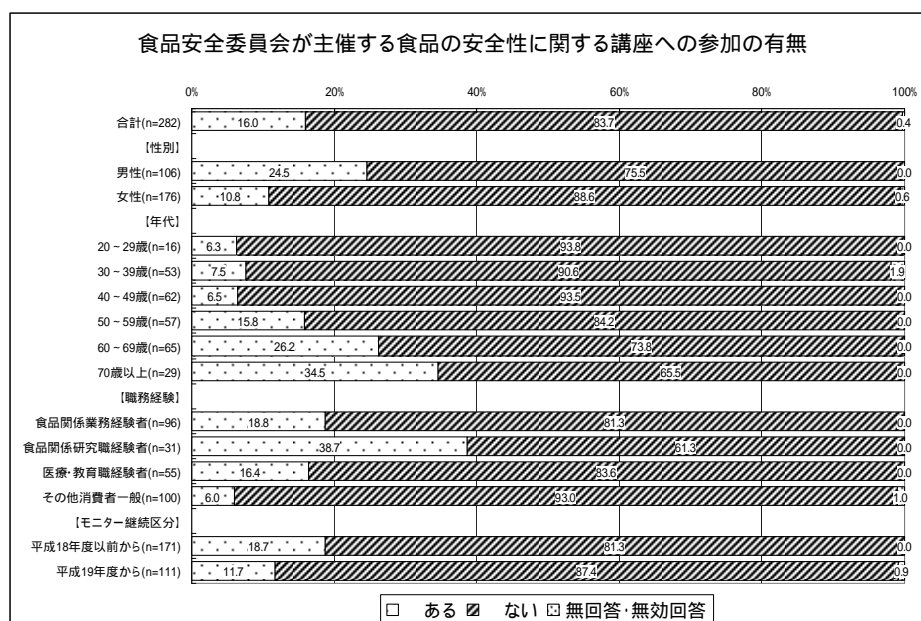
「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座」及び「食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座」へ参加したことがある人の割合は、1割6分
 参加の割合が高いのは、性別では男性(2割5分)、年代別では70歳以上(3割5分)、職務経験では食品関係研究職経験者(4割弱)、モニター継続区分では継続モニター(2割弱)

食品安全委員会が開催している「食品の安全性に関する地域の指導者養成講座」及び「食品の安全性に関するリスクコミュニケーター養成講座」を知っている人の中で、参加経験のある人の割合は16.0%であった。

性別では、男性の参加は24.5%で、女性の10.8%より男性の方が多い。年代別では、年代が上がるにしたがって参加経験の割合は高くなり、70歳以上では34.5%に及ぶ。

職務経験では、食品関係研究職経験者が38.7%と参加割合が高いのに対し、食品関係業務経験者は18.8%、医療・教育職経験者は16.4%、その他消費者一般は6.0%であった。

モニター継続区分では、継続モニターは18.7%で、新規モニターの11.7%より参加割合は高かった。

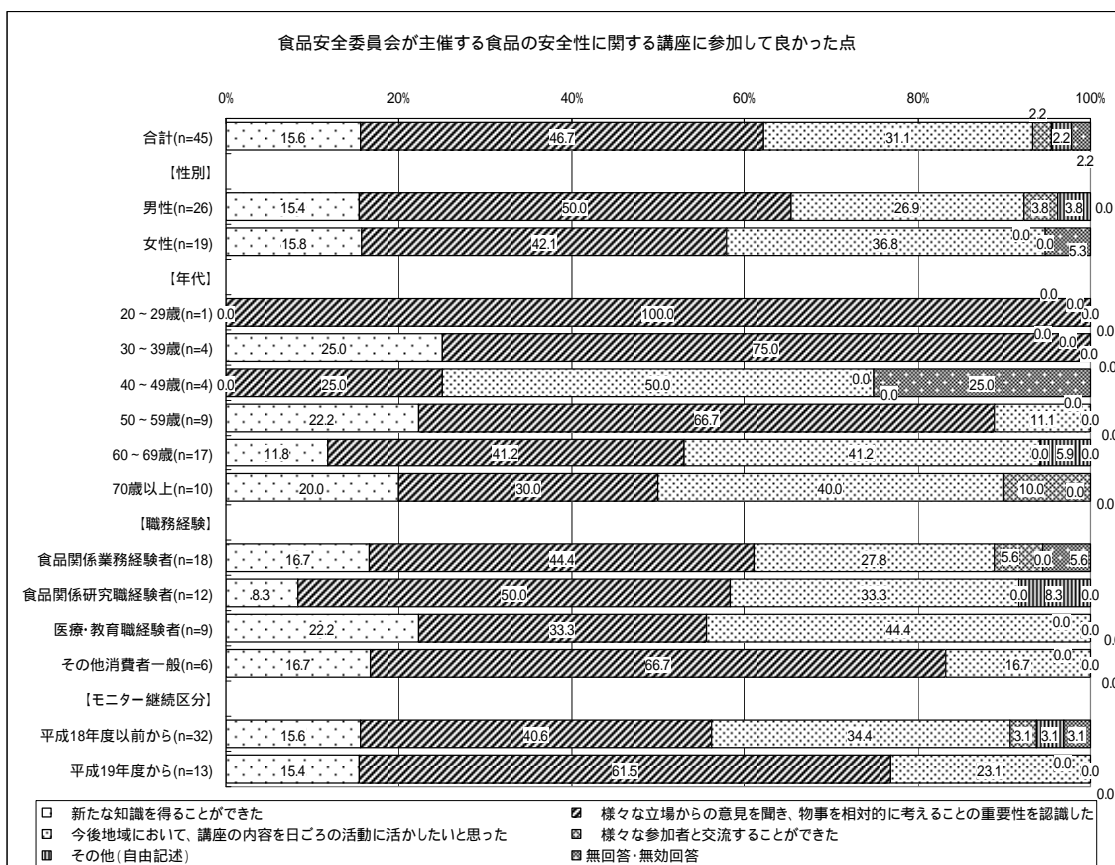


「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座」及び「食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座」に参加して良かった点

問10 問9で「ある」をお選びになった方にお尋ねします。参加してみて、どのような点が良かったですか。(一つ選択)

「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座」及び「食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座」に参加して良かった点は、「様々な立場からの意見を聞き、物事を相対的に考えることの重要性を認識した」が約5割で、次いで「今後地域において、講座の内容を日頃の活動に活かしたいと思った」が3割強であった

「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座」及び「食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座」に参加して良かった点として、46.7%の人が「様々な立場からの意見を聞き、物事を相対的に考えることの重要性を認識した」をあげ、「今後地域において、講座の内容を日頃の活動に活かしたいと思った」は31.1%、「新たな知識を得ることができた」が15.6%であった。



「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座」及び「食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座」に参加していない理由

問 11 問 9 で「 ない」をお選びになった方にお尋ねします。その理由を次の中から一つ選び、回答欄に該当する番号を記入してください。

「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座」及び「食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座」に参加していない理由は、「開催場所が遠方」が4割弱で最も多く、続いて「日々の生活が多忙で、参加できない」が3割弱で、この2つの回答で全体の約7割であった

「開催場所が遠方」の理由が多いのは、性別では女性(4割強)、年代では40歳代(4割強)、50歳代(4割強)、70歳以上(5割強)

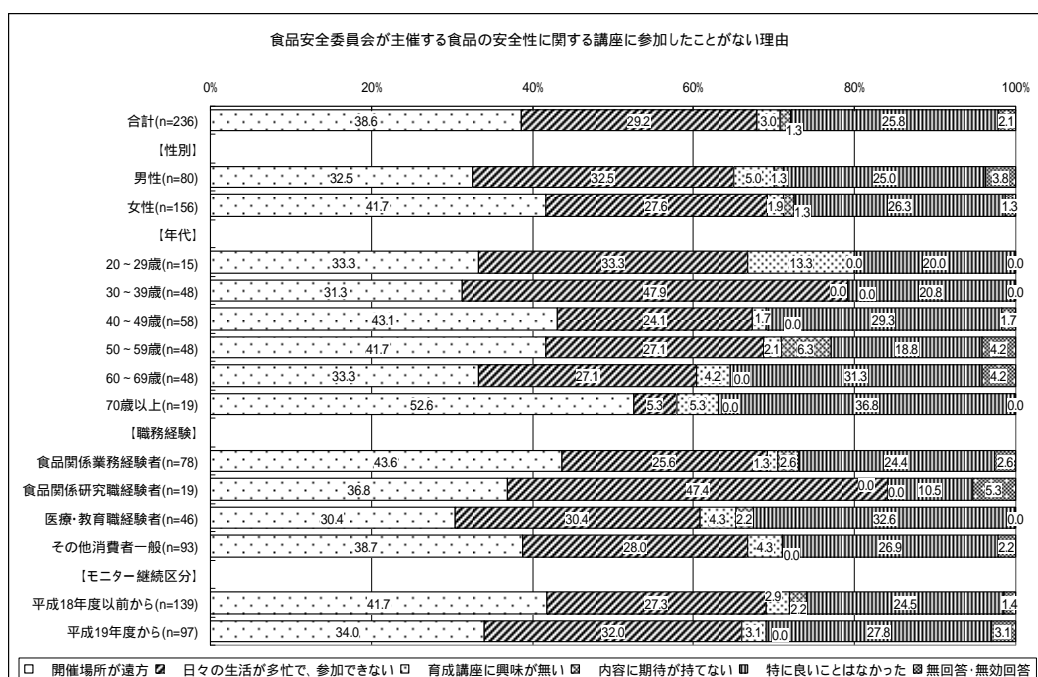
「日々の生活が多忙で、参加できない」の理由が多いのは、性別では男性(3割強)、年代別では20歳代(3割強)、30歳代(4割7分)

当該講座に参加したことがない理由としては、「開催場所が遠方」が38.6%、「日々の生活が多忙で、参加できない」が29.2%となっており、この二つの回答で全体の約7割を占めている。

性別では、「開催場所が遠方」を理由に講座に参加できないのは、男性が32.5%に対し女性は41.7%で、女性の方が高い割合となっている。

また年代別では30～39歳が「多忙」を理由に講座に参加できない割合が高いのに対し、40歳以上の年代では「遠方」を理由に参加できない割合が高い。

注：「その他」の理由は、【自由記述回答・まとめ】に記載



【自由記述回答・まとめ】

問2 「その他」の記入内容（「その他」回答者数 50 名中 35 名の記入内容）

- ・現在「食品安全モニター随時報告」を作成中または作成予定（7名）
- ・「食品安全モニター随時報告」を作成する意志はあるが、まとめることができなかった（6名）
- ・提出前に、テーマが解決する（4名）
- ・テーマ、報告方法がわかっていない（4名） 等

問5 「その他」の記入内容（「その他」回答者数 27 名中 27 名の記入内容）

- ・日程が合わなかった（17名）
- ・家庭の都合（6名）
- ・開催を知らなかった（2名） 等

問6 「その他」の記入内容（「その他」回答者数 53 名中 53 名の記入内容。うち 4 名は希望するテーマを2つ記入）

- ・輸入食品（15名）
- ・表示（10名）
- ・時流のテーマ（4名）
- ・アレルギー（3名）
- ・放射線照射食品（2名）
- ・リスコミュニケーション（2名）
- ・自給率（2名）
- ・食品企業に関すること（2名） 等

問11 「その他」の記入内容（「その他」回答者数 61 名中 61 名の記入内容（うち 4 名は希望するテーマを2つ記入）

- ・日程が合わなかった（18名）
- ・参加しても活用ができない（7名）
- ・参加を検討したが、参加申込みまで至らない（5名）
- ・情報入手が遅かった（5名）
- ・開催を知らなかった（5名） 等

【自由記述回答】

1) 「食品安全モニター随時報告」について

「食品安全モニター随時報告」を提出できない理由

問2 問1で「ない」をお選びになった方にお尋ねします。その理由を次の中から一つ選び、解答欄に該当する番号を記入してください。

(n=35)

職務経験区分	性別	年齢区分	回答	
食品関係業務経験者	男性	30～39歳	今年度は、仕事が多忙であった為、報告が作成出来ませんでしたが、来年度は積極的に作成したいと思います	
		40～49歳	報告したいと思うことが多くあったが、十分まとめきれなかった	
		60～69歳	只今作成中、近日提出します	
		70歳以上	報告案内が来てないから	
	女性	30～39歳	18年度からの継続モニターですが、私事ですが、出産等があり忙しく、新聞、インターネット等で情報を得る時間がありませんでした。せっかくモニターになったの申し訳なく思います	
		50～59歳	機会を逃した 現在、作成中である	
食品関係研究職研究者	男性	20～29歳	近々、報告予定。自分自身の報告内容を十分理解した上で、報告したかったため	
		50～59歳	報告書の必要字数800字では十分な報告が難しいと感じています。論拠となる資料の添付などの受入れがされると報告がし易くなると考えます	
	女性	50～59歳	報告事項を見つけ、報告書を作成している間に、それに関する情報が入り過ぎて、自分の考えがまとまらなくなる為 深刻な報告事項に遭遇しなかった。報告、質問事項として適切か迷って、出しそびれた	
		60～69歳	疑問を解決できる情報が手に入りやすくなってきた 食に関する話題、情報がとても多い日常、頭の中で文章にしていますが、報告作成は年度末近くになっています	
	医療・教育職経験者	男性	30～39歳	教員をやっており、学生や地域の方々の動向等を分析して、有意な事項があれば報告を考えている
			70歳以上	過年度には何回か報告を提出したが、当方の意見について当局のコメントは現行の規則の説明が多く、改善点の是非についての回答は余りない。又、一向に事態は進展せず、いささか提案意欲が薄らいだ思いがする。任期が終わるまで1～2回送付したい(次から次へと不祥事がおきることに問題がある)
女性		50～59歳	昨年度は4、5回報告書を提出したが、今年度は個人の意見を報告することに意味があるのだろうかと思い始め、随時報告をしなかった。昨年5月に開催されたモニター会議で、数人の方から食品安全委員会のホームページを見やすく、利用しやすくなるように改善して欲しいと要望が出ていたが、いまだに元のまま。やはり、どこか、この活動に熱意が感じられない	
		60～69歳	モニターからの報告に、こんな意見でいいの？知らないの？思ったりします。親切にコメントしていて頭が下がります	
			食品の安全だけでは範囲が広すぎて、何をどう報告することが必要かわからない。テーマを決めてほしいと思う	
			モニター会議に出席してなくて、ちょっと関心が低下傾向にあった為、報告まで至っていない 疑問点についてモニター報告書の回答で解決している 意見交換会や、報告書によれば、自分の稚拙な質問が出にくい	
その他消費者	男性	30～39歳	考えがまとまらなかった	

職務経験区分	性別	年齢区分	回答
一般		60～69歳	食品添加物関係を重点に調査してきましたが、調べれば調べるほど混乱しています。とても報告書のレベルでない 報告すべき事項があるが、日々多忙で報告書作成に至ってない
		20～29歳	提出したが、返却されてきた。どうしたらいいのかわかりず、そのままになっている
	女性	30～39歳	「郵送モニター」と登録している為、その内「メールモニター」に切りかえるつもりが、そのままになり、手書きで書く作業がめんどろになった 初年度、どのような事を報告してよいか迷いがあり、タイミングを逃すことがしばしばあった (日々の生活が多忙で、報告書を作成できない)もありますが、報告方法をよくわかっていなかった
			40～49歳
	50～59歳	食の安全が心配で提出したが、内容の訂正を求められた為やめた。これらの心配以前に、聞いてほしい内容と答えが委員会にはあり、それに合った書き方と文章が求められている気がする モニター会議にて、活動報告をさせてもらいました。その時に私のしていることが、まわりの人達と異なることを感じ、報告をする気になりませんでした 19年度中には一度、報告書を提出しようと思っていました	

2) 食品安全に関する意見交換会について

食品安全に関する意見交換会に参加していない理由

問5 問3で「ない」をお選びになった方にお尋ねします。その理由を次の中から一つ選び、回答欄に該当する番号を記入してください。

(N=27)

職務経験区分	性別	年齢区分	回答
食品関係業務経験者	男性	40～49歳	ちょうど当日に重要な会議があって参加できず
		50～59歳	どうしても欠席できない会社の行事があった為
		70歳以上	貴委員会が群馬県庁で開催され参加したかったのですが、私の主催する行事が毎月第4土曜日に行われており、変更する時間は余裕もなく、残念ながら参加できませんでした。今後群馬県で行う場合は、第4(土)を除いて下さい
	女性	30～39歳	開催日に学校行事があったり、子供が急病になったりして、どうしても参加出来なくなった為 仕事を持っており、開催日と都合がつかない。週末の開催も検討してほしい 胃腸風邪に親子でかかり、他の方にうつしてはいけなくて泣く泣く出席をあきらめました。託児があると、もっと参加しやすいと思っています
			40～49歳
		50～59歳	日程が合わなかった為 意見交換会がどこで開催されているのかわからない。わかれば是非参加してみたいと思います

職務経験区分	性別	年齢区分	回答	
食品関係研究職研究者	男性	30～39歳	仕事の関係上、平日は参加できませんでしたが、是非参加したい	
医療・教育職経験者	女性	30～39歳	小さな子どもがいるので、子連れでは参加しにくい	
		50～59歳	今年度は特に突如、家族内の介護頻度が高くなり、活動に支障をきたし、非常に残念です 参加したかったが、どれも日にち、時間が合わなかった	
		60～69歳	案内がなかった 日時の調整ができなかった	
その他消費者一般	女性	20～29歳	出席する予定だったセミナーが、急な出張が入ってしまい出席できなかった 一度参加してみたいと思っている。どの程度(テーマにもよるのだろうが)予備知識が必要なのか心配で、募集期間が過ぎてしまったことが数回ある。あと、仕事をしているため、土日開催もあればと思う	
			40～49歳	子育て中で、参加したくても、主催者側で預り保育等を行っていないため。他の保育施設に預けると、1日1万円程度(2人分)の出費となる 子どもが低学年なので学校から帰ってくる時間に間に合わなかったり、行事に重なったりして出られなかった パネリストの方々に興味を持てなかった 都合をつければ参加できるが、他の用事を優先させてしまっている。一度は参加しなければ…とは思っている 日程、開催場所の利便が、うまく合わなかったため 参加しようと思った会の日時に、たまたま用事があったから 親の介護の日程と重なることが多く、参加することができないでいた。設定テーマに興味があったので、日程が合えば是非参加したかった
		50～59歳		地元開催日に用事が重なって、参加できなかった 平日の参加は、食品関係で働く者としては無理がある
				60～69歳

食品安全に関する意見交換会で取り上げたいことを希望するテーマ

問6 皆様にお尋ねします。食品安全に関する意見交換会に参加する際に取り上げるテーマとして、どのようなものを希望されますか。次の中から三つ選び、解答欄に該当する番号を記入してください。

(n=53)

職務経験区分	性別	年齢区分	回答
食品関係研究職研究者	男性	30～39歳	食品照射 輸入食品の管理について
			40～49歳
		50～59歳	照射食品 基準値違反品(農薬等)の処分方法(再流通)
		60～69歳	食糧生産と温暖化 中国ギョーザ事件について
	女性	30～39歳	交換会にあわせて、事前にアンケートでとりあげてほしいテーマを調査する方が、その時のニーズにあっていると思います
		60～69歳	輸入食品の安全性 器具、容器包装(プラスチック)等の安全性
食品関係業務経験者	男性	30～39歳	近時の食品事故は規制の強化等も大切であるが、業界の倫理の問題である。どう啓蒙すべきか問題は大きい その時々をテーマを中心にしてほしい
			40～49歳

職務経験区分	性別	年齢区分	回答
			効果的なリスクコミュニケーションのあり方について
			フードファデズムについて
			添加物表示のあり方について
		50～59歳	リスクコミュニケーション
		60～69歳	輸入食品
			健康被害のない表示違反による食品廃棄
			食品偽装とアレルギー問題
			参加者の発言時間を多くしていただきたい
			食品の原材料、アレルギー物質、原産国(地)産地、栄養等々表示のあり方に関して
			輸入食品
		一般消費者の正しい常識の向上を図る施策	
		女性	30～39歳
	今、話題になっている中国産の食品などの安全について		
	農業基準の見直し、改正		
	自給率をあげるためのしくみ等		
	その開催時期に、世間で問題になっている事例について(現在であれば中国産冷凍食品について)		
	バイオテロ		
	クローン牛の食用利用について		
有機食品・産地・遺伝子組換え等を含め食品表示について			
40～49歳	食品表示		
50～59歳	中国製ギョウザの中毒問題。中国産の原料を使う日本の食品加工メーカーのチェック体制を強化する再発防止策		
	大気汚染		
医療・教育職 経験者	男性	30～39歳	食品の表示について
	女性	30～39歳	どのテーマも重要だと思いますが、それらを扱う者のモラルなども取り入れてほしい
			給食等の外部委託の管理(食)の問題について
		50～59歳	外国製食品の安全性について
			輸入食品の安全管理
			その時のタイムリーなテーマ
60～69歳	食品の生産地、生産国		
60～69歳	食品偽装、表示について		
その他消費者 一般	男性	50～59歳	輸入食品のリスク評価
	女性	20～29歳	食物アレルギー
		30～39歳	食育について
		40～49歳	企業が実施している食品管理について
			学校給食における安全性
			日本の食糧自給率と食生活の問題
		輸入商品の流通過程について	
		50～59歳	1/30 輸入ギョウザの農薬中毒問題が明らかになったことを踏まえて、輸入食品の品質保証をどうするのかといった、新しく起った問題に関する意見交換会
			アレルギー表示について
			食品の安全と健康を結ぶ食生活(食事バランスガイドではない)
輸入食品の安全とチェック機能等			
60～69歳	輸入食品の検疫流通経路、加工食品の原産地表示		

3) 「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座等」について

「食品の安全性に関する地域の指導者育成講座」及び「食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座」に参加していない理由

問 11 問 9 で「 ない」をお選びになった方にお尋ねします。その理由を次の中から一つ選び、回答欄に該当する番号を記入してください。

(n=61)

職務経験区分	性別	年齢区分	回答		
食品関係業務 経験者	男性	30～39歳	企業に勤めているため、土日祝日に開催してほしい		
		40～49歳	カリキュラムの内容が今一つ理解しにくい様に思えた		
		50～59歳	私は職務上、食品の安全性に関する知識技能を一通り保有していると自負しており、より多くの方が参加できる機会を増やし、各自が習得し主体者となり、地域での食品の安全性に対する正しい知識を広めていけるようになることを期待している		
			3月4日兵庫県で開かれる育成講座に申し込んでいます		
			開催時期を知らなかった		
		60～69歳	勤務ローテーションにより、確約できない 私自身、県内の広報活動がやや少なく、マスコミ上で開催予定が不明だった 食の安全は最大関心事項なので、今後は広報に注意し参加したい(しかし県外までは参加不可) 本件については関心はあるが、今一歩踏み出せないでいる。 リスクコミュニケーション参加者は、セミプロ的な人が多く、これらの人々に対応する位置につくのは、育成講座を受講した程度ではかなり困難であると思うため 食品の生産者の立場をよく理解していない消費者の片寄った知識が、世の中を混乱させているような気がしている。生産者の常識も大切だが、もっと一般消費者をああのような行政の指導を強調する。日本は今、もったいないの精神が失われていると思うが？ 06年12月に脳梗塞で入院したが、軽いので2週間で退院した。失語症はかなりよくなったが、まだ「書く」、「話す」が完全にできない。 神奈川県で開催の時、海外へ出掛けていた為、出席出来なかった。次年度は是非参加したい		
			30～39歳	講座の開催場所、時期を知らないため 講座の開催日を知ったのが、開催された後であったため参加できなかった すぐ行きたいのですが、下の子(1才)が母乳で育てているため、託児がないと出席できないのが現状です。今年春には断乳するため出席できると思います が、有料でもいいので託児を設けてほしいです	
				40～49歳	興味があるので参加してみたいのですが、場所と曜日が合いません。 都道府県での年1回の開催日が、たまたま都合がつかなかったこと。”自分自身の知識をふやす”ということだけでは、なかなか仕事を休んでまででは行こうとは思わない。何回かの継続で修了証のようなものももらえ、又、地域に指導者としてボランティアができればいいのだが 食品安全委員会のメルマガはとっているが、なかなか読んでいない。リスクコミュニケーター育成講座は受けたかったのだが、気がついたら終わっていた。書類をお送りいただくときに、年間の予定表なども入れていただくと予定が立てやすいのですが
					70歳以上
		食品関係研究職 研究者	男性	40～49歳	メインの理由は 開催場所が遠方(自分の居住地域での開催が既に終わっていた or 開催されていない)であり、他地域に行って参加する時間、旅費がないからであるが、実際にリスクコミュニケーター育成講座に参加したことがある人に、出会ったことがないため、その効果に若干疑問もあるため

職務経験区分	性別	年齢区分	回答	
		60～69歳	講座への参加募集時には、まだモニターではなかったので参加していないが、今後できれば参加したい	
医療・教育職 経験者	男性	30～39歳	教員活動の日程と重なる事も多く、時間の調整が難しい	
		60～69歳	開催場所が近い時も日程が合わなかった。土曜日、日曜日にも開催いただけると出席しやすいと思います	
		70歳以上	季刊誌「食品安全」では、初回の参加者は行政関係者が大半を占め、委員会の考え方もそのような傾向かと思っていた。最初の頃のモニター業務よりも、更に発展した形になるのかとも思っていた。それが発展時段階なら、自然の流れであろうとも思っている。私の住む北陸は、この種の講習会は今まで私の知る所では、なかったと思う。近い所であれば参加したいと思った(当時)	
	女性	30～39歳		今、妊娠していてなかなか外に出るのが大変なので・・・
				モニターになって、初めて聞く内容が多く、意見をまとめる立場より、まだまだ知識を収拾して、個人のレベルを上げる段階にあるので、参加はしませんでした
		40～49歳	食の安全のために勉強したり、人に伝えたり、自分でも気をつけたり、と何らかの行動をとってきましたが、自ら生産者にならない限り、個人の力でできることには限界があると感じるから	
		50～59歳		(日々の生活が多忙で、参加できない)と同様、日程が合わなかった
				大変興味深く、参加したかったが、札幌での開催の時、非常勤講師の仕事が入っていて、参加できなかった。次回はぜひ参加したいと思っている
		60～69歳		日程が合わなかった
				私はモニターになって以来、保育園、地域センターにて母子の食の安全について、いわば橋渡しの役割をしてきたと自負していますが、少々体調を崩し、現在休んでいます。しかしながら、万人が食の安全について強い関心を寄せていることは、ひしひしと感じます。講座が広く知られるように広報をお願いします
				現段階では、受講後それを活用する場がまだ見つけられない
			次々と食に関する問題がでてきて、いよいよ自給自足の時代到来のようになり、自分で育てて作ってもを食べないといけないような、あまりにも、野菜一つとっても、以前なかったものができて、果たしていいものかどうか、交配して新しいものを作ることが栄養的にいいかどうか、疑問に思います。そのために薬品や農薬をたくさん使ったり、中国野菜の輸入をやめることはできないかと、考え出す時がきているように思います	
	70歳以上		日程の都合がつかず残念。HPで当日の資料をみて是非次の機会に参加したいと思いました	
70歳以上		高齢者の為、指導的役割はもてないので参加しない。唯、興味だけはあります		
70歳以上		兵庫県で開催された日、時、場所を見落とし、参加したいが、未だその機会にめぐまれない		
その他消費者 一般	男性	30～39歳	参加したいと思うが、受講後、その知識を積極的に活かす場がないため、つい参加を見送ってしまう	
		70歳以上	地域への情報提供という活動に必要なスキルとは思えない 開催当日、他の行事と重複したため	
	女性	20～29歳		平成19年度分は気づいたら終わっていた。開催県に在住もしくは在勤の人のみが対象になっていたと思うが、年1回だけしか対象日がないと、少し不便な気がする。せめて隣接県まで枠を広げるなど、少し条件を緩めてほしいです
				難しそうで参加にくい
				子供(1才未満)連れでは参加できないので行きづらい
		30～39歳		子供を預ける場所がない 参加したかったが日程が合わなかった
	40～49歳		地域限定の募集であったため	
			子育て中で、参加したくても、主催者側で預り保育等を行っていないため、他の保育施設に預けると、1日1万円程度(2人分)の出費となる	
			日々の生活がいつも多忙な訳ではないのだが、たまたま日程のおりあいがつがず、参加できないでいた。日程が合えば、是非参加したいと考えている	

職務経験区分	性別	年齢区分	回答
			そんな場に私が出るなんて…と少し気遅れしてしまう
			日程が合わなかったから
			講座を受けても、人様に指導する立場になるには自信がない
			開催日等、いつ行われたのか知らなかった。知っていたら、是非参加したかったので残念です
			日程が合わなかったため
			イオン銀行に勤務する事となり、イオンショッピングセンター内でのインスタブランチ(銀行)で働く為、現在研修中です。ショッピングセンターでは、もちろん食品売場もあり、お客様と食品安全に関する対話もしてみたいと考えております。今まで開催場所や日程が合わず、不参加でしたが、今後もメール配信などで様々な情報をいただければありがたいです。今回の冷凍食品の会社(メーカー)ごとの商品等も、食品安全委員会からのメール配信で知り得た情報です。大変参考になり、役立ちました。ありがとうございました。今後も、一般市民の私達にも正確な情報を提供していただけるとありがたいです。2年間勉強になりました。ありがとうございました。
			講座終了後に知った為、参加できませんでした
			参加したいと思い、情報を気にしていたつもりでしたが、気づかず今年度は参加できずじまいです
		50～59歳	滋賀県で開催されたりスクコミュニケーションにつきましては、家族が参加させていただきましたので、私は参加致しませんでした。もし参加しましても、得られた情報を伝える場が具体的にないように思い、最終的に不参加に致しました
		50～59歳	育成講座に参加希望で申込みをしたが、回答が無く、人数が限られていた為、多分、選にもれたのだと考えられる。他県でも参加したいと思うが、地方に依っては、その地域に在住か勤務とかの条件がある為、あきらめたことがある。因みに、1月18日の神奈川県での育成講座に応募したが可否の通知は無かった。情報知識を得る為、是非参加したいと考えている。
		50～59歳	「指導者育成講座」に参加希望でしたが、参加理由等が必要で考えがまとまりませんでした
		50～59歳	育成講座に参加した後、この知識は何に生かされるのかわからない。具体的な指導員の仕事等に結びつかない
		60～69歳	3月に広島で開催される会に参加を考えている
		70歳以上	たまたま講座開催日に時間の余裕がなかったので